

令和2年5月12日（火曜日）

南三陸町議会全員協議会会議録

南三陸町議会全員協議会会議録

令和2年5月12日（火曜日）

応招議員（16名）

1番	須藤清孝君	2番	倉橋誠司君
3番	佐藤雄一君	4番	千葉伸孝君
5番	後藤伸太郎君	6番	佐藤正明君
7番	及川幸子君	8番	村岡賢一君
9番	今野雄紀君	10番	高橋兼次君
11番	星喜美男君	12番	菅原辰雄君
13番	山内孝樹君	14番	後藤清喜君
15番	山内昇一君	16番	三浦清人君

出席議員（16名）

1番	須藤清孝君	2番	倉橋誠司君
3番	佐藤雄一君	4番	千葉伸孝君
5番	後藤伸太郎君	6番	佐藤正明君
7番	及川幸子君	8番	村岡賢一君
9番	今野雄紀君	10番	高橋兼次君
11番	星喜美男君	12番	菅原辰雄君
13番	山内孝樹君	14番	後藤清喜君
15番	山内昇一君	16番	三浦清人君

欠席議員（なし）

事務局職員出席者

事務局長	男澤知樹
主幹兼総務係長 兼議事調査係長	小野寛和

期日 令和2年5月12日（火）

場所 南三陸町役場議場

次 第

1 開会

2 挨拶

3 事件 新型コロナウイルス感染症に関する議会の対応について

・今年度の議会費の旅費予算の減額について

・議員報酬の削減について

4 その他

5 閉会

午前9時58分 開会

○議長（三浦清人君） おはようございます。ちょっと時間前でありますけれども、全員おそろいのでありますので全員協議会を開催いたしたいと思います。

本日の全員協議会は、先月28日に開催されました全員協議会でのそれぞれの議員の方々からの御発言がありました件につきまして、議会として今後どのような対応していくかということを確認させていただくために本日開催したわけでありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

先の28日に全員協議会で皆さん方の御理解をいただきながら専決処分をしたわけでありますけれども、まだまだ10万円の支給の手続をやっていないというようなお話であります。先ほど企画課長から確認いたしましたところ、郵送での申込用紙が14、15日に発送するという内容でした。18日から3か月間を受付けをすると、18日からの受付けと。早い方であれば22日に第1回目の支給という段取りでいるそうであります。あとは随時申込書が届き次第、それぞれの御家庭に振込をするという段取りであるそうですのでお知らせをいたしたいと思います。

今日もよろしくお願ひいたします。

ただいまより、南三陸町議会全員協議会を開会いたします。

本日の全員協議会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う町民生活や町内の産業等への影響に対し、議会としての今後の独自の対応を協議するために開催するものであります。

本日の会議の進め方ですが、先月28日の全員協議会で出された意見、今年度の議会費の旅費予算の減額について及び議員報酬の削減について、以上2点について議会としての方向性を出していきたいと思います。まず、議会費の旅費予算の減額について各議員からの意見を伺いたいと思います。そして、旅費の減額に関する一定の方向性が確認できましたなら、その次に議員報酬の削減について各議員からの意見を伺いたいと思います。このように進めることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（三浦清人君） なしと認めます。それでは、そのように進めさせていただきます。

早速会議に入りたいと思います。

初めに、新型コロナウイルス感染症に関する議会の対応についてを議題といたします。

初めに、今年度の議会費の旅費予算の減額についてを協議いたします。

まず、事務局に配付資料の説明をさせます。局長。

○事務局長（男澤知樹君） おはようございます。

全員協議会資料、レジュメを1枚めくっていただきたいと思います。コロナウイルス感染症に関する議会の対応についてというペーパーをつけさせていただいております。

議長申しましたとおり、本日の会議の議題、協議事項は、旅費予算の減額及び議員報酬の削減の2点でございます。この論点あるいは考え方について簡単にペーパーにまとめさせていただいております。

まず、旅費予算の減額についてでございます。

議会費旅費予算の減額と、それを原資としてコロナウイルス対策への予算へ充当することにつきましては、予算の提案権は町長に専属しておりますことから、決議として議会の意思を表明すること、あるいは要望書として執行部へ提出することが考えられるということを記載しております。

主な論点としては、ア、イ、ウと3点記載しております。特別旅費内の減額の項目、減額の時期、そして意思表示の方法、決議あるいは要望書というのが論点になるのかなということを記載しております。

続きまして、議員報酬の削減についてでございます。

一定期間の臨時的な議員報酬の削減につきましては、議員報酬の特例に関する条例というような形で議員提出議案として提出することが可能でございます。ただし、会議規則第80条におきまして「評決には、条件を付けることができない」という旨規定されておりまことから、予算の減額分の使途を条例の中で指定することはできないということを記載しております。

上記の事象に対応するためには、前1番と同様に決議または要望書という形で議会の意思を執行部もしくは町民に対して表明することが考えられるというものでございます。

論点いたしましては、ア、イ、ウとしてまとめております。削減の範囲及び額または率、イとして削減の時期及び期間、そして意思表示の方法というふうにペーパー記載させていただいております。

手順につきましては、①から⑤という流れになるのかなということで記載をさせていただいております。

1枚めくっていただきたいと思います。

参考資料の1番という形で、今年度の議会費の特別旅費の予算の内訳、そして下にはそれに関連する予算ということでまとめさせていただいております。

常任委員会、議会運営委員会、広報特別委員会、活性化、東日本、諸会議、議員研修ということで7項目がございまして、予算の総額は495万5,000円でございます。

上記に関連する予算といたしましては、行政視察と職員の随行旅費、そして車両の借上料あるいはセミナー、講座の参加者負担金、これが108万1,000円、合わせて約600万円の予算が今年度の議会費の旅費の中にはございますというものでございます。

参考資料の2につきましては、議員報酬の削減のときに説明をさせていただきます。以上です。

○議長（三浦清人君） 説明が終わりました。

それでは、まず今年度の旅費予算に關し減額すべきであるという方の意見を伺いたいと思います。その際、減額すべきと考える項目、内容についても併せて発言願います。5番後藤伸太郎君。

○5番（後藤伸太郎君） おはようございます。

先般の全員協議会でも旅費、研修費について削減してはどうかということをこの議場でもお話しさせていただきましたし、それに引き続いて私の考えを述べさせていただければと思います。

今、では、項目も添えてということですので、手元の資料の参考資料1と議会費旅費、特別旅費の予算内訳ということを見ながらお話しさせていただきたいと思います。

結論から先に申し上げれば、1番常任委員会、それから2番議会運営委員会、それから3番広報特別委員会、そして7番議員研修、この予算を皆減。それから、下の上記に関連する予算というところでは、3番の負担金補助及び交付金につきましては皆減、1番の普通旅費につきましては、ただいま上記で申し上げました常任委員会、議会運営委員会、広報特別委員会、議員研修に関わる部分の旅費、これがちょっと精査はできませんけれども、の分を削減という形ではいかがかなと思います。ざっと試算しますと、合計で400万円ほどになるのではないかと思います。

その理由といいますか考え方についてでございますけれども、まず旅費は何のために計上されているのかということですけれども、これは各委員会等で視察研修等を行うための予算でございます。もちろん視察が不要である、必要でないんだということではないのかなと思います。当然、必要だから旅費というのは計上してあって視察に行くわけでございますけれども、ただ議員を6年以上続けてきた私の考え方と実感といたしましては、議員それぞれの資質向上または当該地域に視察に行くことによって直接情報収集をするということが効果の1つとし

て大きな側面を担っていると感じます。ですので、その部分、議員の資質向上または情報収集という側面に限りましては、今年度に限っては、必要であればそれは自腹で行くと、またはインターネットやテレビ電話などを駆使して情報を集めるということにしてはどうかと考えるために、視察研修費を今年度は削減してはどうかという考えに至ったものでございます。

さらに、補足の理由といたしましては、現時点で県境を越えて移動するということは慎むべきという国の姿勢がございます。これが年度内に確実に解除されるという保証は現時点では全くございません。PCR検査等様々な検査が行われておりますけれども、今回の新型コロナウイルスというものは、偽陰性または無症状患者という者も相当数いるらしいというような情報もありますし、どこまで自粛をすべきかという線引きが非常に難しいということがございます。ですので、県境を越えての視察ということは、もう現時点をもって行わないほうがいいのではないかという判断をすることは可能なのではないかと考えております。

もう一つは、この後議論されることと思いますが、報酬カットに関しましては、根拠を示すことが非常に難しいと私は思っております。ただ、旅費というものは行かないと決めれば削れる予算でございます。削減した分は、私としてはコロナ対策に充ててほしいですけれども、参考資料を読みますと、また議員として日頃の議決権と執行権の及ぶ範囲というものを考えますと、こちらからこれに使えと指定するということは非常に難しい、できないとは思いますが、それでも、実費ですので、現時点で予算を削減してひとまず予備費に充当するということも私は可能なのではないかなと思います。人件費等は流用できない予算と指定されていると思いますが、旅費はそれには当たらないのかなと私は考えております。

さらに、町民の皆さんにとって非常に分かりやすい予算ではないかと思います。まず、削れる。要は、町全体の歳入それから町民皆さんの経済活動が大きく縮小している中で、議会としてまず何を考えなければいけないかということは、無駄を省くということだろうと思います。削れるところからまず削るんだという姿勢だと思います。その姿勢を町民の皆さんに分かりやすく示すためには、必要な視察研修であるけれども、今年度は自腹で行く、その分の予算は町にお返ししますというのは、議会からのメッセージとして非常に分かりやすいのではないかと考えております。

すみません、長くなりましたが、最初に申し上げた内容、それからそれに至った考えを述べさせていただきました。よろしくお取り計らいいただければと思います。

○議長（三浦清人君） ほかに。12番菅原辰雄君。この間、そこで前で止まっていたから。

○12番（菅原辰雄君） わかりました。

今、5番議員さんがいろいろ述べましたけれども、私も取りあえず現段階で削れるところはこういうところかなという認識は同じでございます。その中で、東日本大震災対策特別委員会のあれに触れていないということは、今後、状況が回復してくれれば、これらを含めたあれで中央要望等もこれは可能だなと思っています。削減すればいいというものじゃないんですけども、先ほど5番議員さん言ったようにいろいろなことを考えれば、あとは町民の感情とか思いとかいろいろなことを考え合わせれば、この辺であれば、皆さん議員共々納得できるんじゃないかなと考えております。以上でございます。

○議長（三浦清人君） 12番、この項目、みんな削減なのか、それとも何ぼか残すのか。

○12番（菅原辰雄君） 今、あれしました常任委員会、議会運営委員会、広報特別委員会、活性化特別委員会ですか、あとは議員研修、これで5番議員さんとほぼ同じでございます。取りあえず5番の、これは今後状況が変わったら中央要望は必ずしなければいけないのかなという認識でございます。以上でございます。

○議長（三浦清人君） ほかに。7番及川幸子君。

○7番（及川幸子君） 私、賛成でないんですけども、この旅費の削減に反対なんですけれども、よろしいですか、発言は。

○議長（三浦清人君） いいです、意見として。

○7番（及川幸子君） 私は、コロナのための対策ですから、今、4月、5月始まったばかりでどのような収束するかまだ見えない、そういう状況で旅費を削減するということはいかがなものかなと思います。

というのは、必要だから取ったものであって、これを削減していくということは来年の4月の予算のときでもいいのではないかと思われるんです。今、コロナ対策ですから、であれば状況が変化することによって行ける状況になる可能性もあると思うんです。そうすると、我々、勉強会、それらを自費で行くとなるとなかなか行けない人も出てきます。同一歩調で行く限りでは、やはり旅費というものを残しておく必要があると思うんです。最後は、行かなければ減額できます、最後には。

それよりも、むしろ旅費を削るよりもやはり報酬のほうを、この次は報酬に行くわけですが、報酬の減額のほうがコロナの今の時期、そのほうが議会としての立場はいいのではないかかなという思いがいたしますので、旅費を削るということについては反対とさせていただきます。

○議長（三浦清人君） ほかに。11番星喜美男君。

○11番（星 喜美男君） 前回の出た議論は、今、及川議員が言われたように、最初に後藤伸太郎議員から旅費の話が出て、そうじゃなくて議員報酬でやったほうがいいんじゃないのという話で出た話ですから、これを分けて別々に議論するものじゃなくて、併せて1回にやったほうが私はいいと思うが、いかがですか。

○議長（三浦清人君） 28日の日は、今言われたように旅費の減額、それから議員報酬の削減という御意見が出て、時期の問題も出ましたけれども、それを2つの案件を今日、全員協議会開いて皆さんそれぞれの御意見をお聞きしたいということありました。

一括でやってもいいし、今はできれば分けて、先ほど御意見がありましたように旅費全体の中でも7項目のどれどれを減らすかとか全部減らすかとかという問題、それから報酬の場合は率とそれから期間とあるわけです。だから、ごちゃ混ぜにならないかなと思って、そのために分けたわけです。どうします。一緒だったら一緒でもいいし、こんがらがらなければいいですけれども。

9番今野雄紀君。

○9番（今野雄紀君） 別のほうがいいと思います。

○議長（三浦清人君） じゃあ、よろしいですか。別々に。だから、旅費をどうするかをまずもって決めて、順番というか、そういうふうにやりたいと思うんです。よろしいですか。では、そういうふうに進めます。

ほかに。4番千葉伸孝君。

○4番（千葉伸孝君） この間の会議の中で後藤議員の発言というのは、コロナが今後いつまで続くかわからないというような現状の中で、今、取りあえず幾らかは収束してきたという中で、議会活動がコロナのせいでできないと、視察含めていろいろな形で。その視察できなかつた部分の旅費の部分で、使わなかつたらその部分をコロナ対策に使うべきという形のような話として私は受け取りました。

そして、3月始まってまだ5月で1か月ちょっとしかたっていないと、そういった中で、今後が見えない中で多くの視察、あと交流会、その辺ができるないような状況になります。その浮いた予算をコロナ対策に使うべきというような形の内容で私は聞いたんですが、今後の後藤議員の話ですと、取りあえず今年度の旅費研修、その辺は全てコロナ対策、そして視察研修は自腹で行くというような話でしたが、前回聞いた話と私は違っているので、取りあえずコロナで視察とか行けない部分の予算に関しては、全部コロナ対策に使うというような感じの考えです、私は。そのように受け取りました。

○議長（三浦清人君） 4番の考え方としては、これ7項目全部減額するということ。7項目全て。（「はい」の声あり）

ほかに。9番今野雄紀君。

○9番（今野雄紀君） おはようございます。

さきの全員協議会で5番議員から出たんですけれども、そこで今回、特別旅費の減額ということですけれども、先日の新聞で、「コロナ対策、議会も変わる？」という記事が載っていました。「テレビ会議・議事効率化、手探り」という見出で、例として取手市の市議会でインターネット会議のシステムでZoomというのがあるらしいんですけれども、それを活用して議会を開いているという記事でした。

そこで、今回の特別旅費の減額なんですが、私が思うに、今回のコロナの影響で行けなければ特別減額しなくても使い切れないんじゃないかという思いがあります。そこで、コロナ対策として、もし私が減額する以前に、例えば、資料1の1、4、7とかいろいろあるんですけれども、そういういた使い切れないと予想されるような予算を以前ペーパーレス化でやったタブレット等のああいったことを導入する準備というか、例えばの話なんですけれども、モニター的に何台か議会で購入して、そしてお試しで持っていない人たちに使ってもらっていて、そういういた今後に対するテレビ会議等に対する対応していったほうがいいんじゃないかと思います。

話分かったかどうか分からないんですけども、どっちみち減額されるものを減額というか、消化し切れないと思われるものを減額するよりも、そういういた前向きな議会としてコロナ対策に関係するような使い道を、もし今予算を途中で用途変更できるかどうかは分からないんですけども、そういういたことも1つの議会としての対応、考えだと思います。

○議長（三浦清人君） 9番、使い切れない予算というのはどういうことですか。

○9番（今野雄紀君） 使え切れない予算というのは、結局、旅費がコロナの関係でどこにも行くことができなかつたということは、要は、そのことを使うことができなかつたというか、そういう予算……。

○議長（三浦清人君） そうすると、7項目の中で使い切れない項目はどれですか。

○9番（今野雄紀君） 例えば、特別旅費なので1番とか、あと4番、あと7番、あとそれに関連する予算もそれによって少しは違つてくると思うんですけども、以上その3点ぐらいが使い切れない状況に陥るんじゃないかと思います。

○議長（三浦清人君） ほかに。1番。

○1番（須藤清孝君） 素朴な疑問を前に話して申し訳ないんですけども、前回の全員協議会のときに、ほかの議員さんからもありましたが、前例という形での、例えば、ほかの議会とかの動きであったりとか、あと当町でいうのであれば震災後の、例えば、報酬の話、後での話になりますけれども、議員の報酬の削減とかという実例があったのかどうかという、私ちょっと勉強不足なものでそこを今疑問には思っているんです。

その話を聞かずして今ちょっと意見を述べさせていただくとすれば、率直に本当に私は、今、私たちに何ができるかというところが多分あるところで、ただ予算という公的なお金を使う難しさというのもすごく理解しているところで頭が回らないんですが、町民の目線と私たち公的なお金に携わる仕事をしている感覚の違いというのは実際あります、冷蔵庫を買う予定でいたんだけれども、洗濯機が壊れたから洗濯機を買うお金に回しますということは、公的なお金は多分できないんだと思います。だけれども、一般庶民の感覚でいうと、今買わなくとも我慢できるんだったら、そのお金があるのであれば何かに回そうよ、今回みたいに緊急事態だというときにその余力を回そうよという考えは、私は町民に寄り添った考え方だと思うので、このお話をいったところでいうと前向きに検討したいなというのが私の意見です。

具体的なところでいうとどの項目がとなってくるんですが、どうなんでしょう、中央要望であったりとか、あと議長の活動費だったりとか、この辺は私は必要なものだと思っています、最低限。ほかの5、6以外に関するところは、もう思い切って行動に移してもよろしいんではないかなと思っております。

○議長（三浦清人君） ほかに。2番倉橋誠司君。

○2番（倉橋誠司君） 私もちょっと非常に悩ましい問題だと思っておりまして、今、須藤議員が言ったとおり、目的がはっきりとしないと、削減するのはいいんだけれども、その削減したお金をどう使うのか、町民のためになるのかどうか、その辺の何に使うのかをはっきりとさせた上で削減するんだったら分かるんですけども、ただ単にもう削減しましょうということで何かコロナ基金とかそんな抽象的な名前でやるのはいかがなものかなと思います。

それと、世界の情勢なんか見ていますと収束に向かっているようなイメージがありまして、年度全てを、もう1か月半たった時点で今年度全ての予算をなくしちゃう、ゼロにするというのはちょっと思い切り過ぎというか、そこまでやる必要があるのかなと。例えば、半年分にするとか半額にするとか、そういう手法もあるのかなとも思っています。ですから、ちょっと今の時点で、この1から7全てを削減するというのはいかがなものかなと、やり過ぎなようなイメージを持っています。でも、何かやっぱりやったほうがいいという思いはあり

ます。非常に悩ましいところです。

ですから、目的です。さっきのタブレットの話もありましたけれども、こういったことに使いたいんだという意思表示があれば、そこは検討はしたいなと思います。

ですから、目的がない状態では反対という立場でございます。

○議長（三浦清人君） 3番佐藤雄一君。

○3番（佐藤雄一君） おはようございます。

私も、どちらかというと必要限度の予算を予備費として使えるような形で若干残しておいた中で、各項目ごとの削減してもいいのかなと考えているところでございます。ただ、我々の意見が執行部のほうに届くような表し方、表現の仕方というか注文ができないような文章が書かれておりましたので、できればコロナ対策に使えるような形で要望できるような考えがいいのかなと。

それで、最低限、先ほど前議員も言われたように、中央要望とか議長等会議、この議長等は議員も入るんですか。その辺も少し残しながら削減していったほうがいいのかなと考えております。

○議長（三浦清人君） では、局長のほうからちょっとお話しさせます。

○事務局長（男澤知樹君） まず、目的をはっきりさせた上でという御発言がございました。私の最初の説明がちょっともやつとした説明であったのを申し訳なく思っております。

補正予算、当初予算もですけれども、予算の編成権限は町長に専属していると、要は議会が予算を提案するという権限はございません。その上でということでございます。議会は最終意思決定機関でございまして、かつ議会は議案を提出できると。決議案というような形の中で、例えば、現下の情勢に鑑み、コロナ対策事業に、今回減額するんだけれども、した予算を充当していただきたいというような具体的の使途を明示しない形ではありますけれども、コロナ関連対策事業費に充当していただきたいというような形の決議を議会で議決をして、それを当局のほうに議決した旨の報告という形で議会全体の意思を表すということは可能でございます。

繰り返しますけれども、予算の編成権限は当然議会にはございませんけれども、こういった形で議会の意思を当局にお伝えをするということは可能であると。逆にいふと、そこまでと。それ以上でもそれ以下でもないんですけども、こういった立て分けになってございます。以上です。

○議長（三浦清人君） 6番佐藤正明君。

○ 6番（佐藤正明君） 前任の方がいろいろ意見を述べたようございますが、私は、まず削減するのは1番ですか、常任委員会、例年ですと今の時期に毎回行っていたんですが、そういう形であと議会で結びをもって次の常任委員会の活動に入るんですが、この1番は要らないと思います。削減ですか。

それから、議会運営委員会についても同じような形で、私も削減する必要でないかなと。

それと、あと特別委員会の広報委員会も委員長が一応必要なとき自費でというようなことをお話ししてありますので、当然これは削減したほうがいいと思います。

あと4番活性化特別委員会は庄内との合同研修会ということで、既に庄内のほうからは今年度は交流会しませんということの連絡があったと私は聞いているんですが、延期ですか。ですから、いつまでコロナが続くか分かりませんが、取りあえずこれも必要ではないのではないかと。

それと、5、6は、やはり今後の活動においてもこれはまだ予算化しておいたほうがいいと思います。

7番は、これも必要ないと思います。といいますのも、コロナがいつまで続くかといいますと、第2次の感染等も大分各県で騒いでおりますので、年内はやはりちょっと県外の不急不出ですか、県外に出る機会をできるだけなくしてコロナ収束に向かってもらいたいと思います。

あとは、上記の関連についての予算においては3番負担金補助及び交付金、セミナー等の参加も必要ないと思います。

以上、私はそのように考えております。

○議長（三浦清人君） 8番村岡賢一君。

○ 8番（村岡賢一君） 皆さんに申し上げたように、私も、やはりこういう状況の中で、例えば、こちらがいいといつても相手のあることですし受け入れる側も慎重になっている時期でございますので、この1年かもう少し長い目で見ていかないとはっきりしたことが分からぬという状況の中で、計画を立てるということは非常に難しいと思います。そういう中で、予算を残すといいますけれども、やはり削れる予算というのが見えてきましたので、ただいま言いましたような5番、6番を残したほかの経費につきましては、やはりそういうコロナ対策に使ったほうがいいのではないかなど考えております。以上です。

○議長（三浦清人君） 10番高橋兼次君。

○ 10番（高橋兼次君） いろいろコロナに向けての議会の対応ということでいろいろな意見が出

たようですが、前提として内外の情勢、大きく、僅かですけれども、動いてきたような気がします。そういう中で、この案はよろしいんですけども、もう少し静観すべきかなと。準備はしておいて、また第2波、第3波と来て財政逼迫のような状況になったときは、すぐ出動するような考えもありかなと。

それで、特別旅費ということを確認されておりますので、その部分については、やはり5、6番除いてやるのであれば、全てこれは減額というような考え方であります。

それから、一番大事なのは、いろいろな込み入った決まりがあるようですが、使途の明白は絶対必要です。我々の身を削って減額したものがどのように使われたのか不透明では、これはいかがなものかなと。単なるパフォーマンスにしかならないんじゃないかなと、そんな思いがします。

それから、今言いました時期がちょっとずれているのかなと。これが1か月ぐらい前ならまた別な考え方もあるんですけども。そういうようなことで、そしてその効果がはっきり我々が手に取ることができるような考え方を持つべきかなと、そんな思いです。以上です。

○議長（三浦清人君） 11番星喜美男君。

○11番（星 喜美男君） ちょっと私、特別旅費もそうなんですが、報酬のほうも一緒に、さつき提案もしたんですけども、よそをちょっと私調べてみたんですけども、報酬カットを見ましても、もちろん大きい市とかしか載っていないんですけども、規模が全然違うんです。10%カットとしても数千万円とか億に近い金額が出てくるんです。政務活動費なんか半分に減らすといったところもあるんですけども、そういった感じのあれと、ちょっとうちの町が10%やったとしてもどれだけのことができるのかなと非常に疑問に思っているところなんです。

今、町民の皆さんが高いに困っているかといいますか不安に感じているかといいますと、国がいろいろ出している持続化給付金であったり、今度、家賃支援とかそういった話が出ているんですけども、内容が分かりづらくて果たして自分が対象になっているんだかどうかも分からない人たちがほとんどなんです。そういったところを考えますと、私は、これよりも国の制度等をしっかりと学習して、そしてもらえるのにもらいかねた人が出ないような方向に指導していくような研修等をしたほうがよろしいのではないかと思っています。

○議長（三浦清人君） そうしますと、旅費の削減についてはしなくてもいいと。（「はい」の声あり）

13番山内孝樹君。

○13番（山内孝樹君） 皆さん、私の思っていること等それぞれ御発言をされましたか、一番の目的でありますか、この目的は、自助、共助、公助を基本とした町の対象、我々の対応もそうですが、これが一番の基本となっているところであります。目的は、南三陸町から、幸いという言葉は適切ではなかろうかと思いますが、今、感染者、発症者も出ていないと、これを維持するのが一番の、遵守していく上で維持するのが一番の目的ではないかと思います。

そしてまた、各議員がおっしゃいましたとおり、議会費旅費、特別旅費等の内訳の中から各項目が示されましたか、私も、例えば、震災に遭った我々の町の復興事業がコロナウイルスの感染によって影響は出ないのかと。これから活動をする上では5番の特別委員会の旅費並びに議長等の旅費、諸会議への旅費等もこれは残すべきではないかと。

ほかは、またこれも引き合いに出すと何ですが、先々のイベント等も中止の方向で進めておりますゆえに、各項目の断念せざるを得ない費用等は皆さん申し述べたとおりであります。

したがいまして、この目的を、予断を許さぬ気持ちを当局と共に連携をし、議会活動の中で進めるべきでありますと、私の思いはそのようなところで受け止めていただければと思います。以上です。

○議長（三浦清人君） 14番後藤清喜君。

○14番（後藤清喜君） 結論から申せば、旅費、特別旅費を削減する考えでございます。

コロナは収束がいつになるか分かりません。専門家では、2年ぐらいかかるんじゃないかと言われております。ただ、ワクチンが出れば、インフルエンザと同じぐらい、ある程度行動はできますけれども、まだまだそれも開発されておりませんので、今回は議会の旅費、特別旅費を削減しまして、5番、6番は皆さん残すように私もそういう……。5番なくてもいいんですけども、6番だけ残してあとは削減してもよろしいと思います。

ただ、やはり中央要望が一番東京なんですね。やっぱりここ1年間は東京に行かないように、そして来年度行くように、来年度も多分復興庁はまだ残っていると思いますので、方々復興状況をお礼しながら、6番だけ残して私は削減して、町のコロナ対策の町民へのいろいろな上乗せですか、支援に充てていただきたいと思います。

そのためにも議会としての決議案をやっぱり6月に決めて、一瞬でも早く県内で最初に議会としての発信力をしてみたいと思います。以上です。

○議長（三浦清人君） 15番山内昇一君。

○15番（山内昇一君） 皆さん、それぞれいろいろ御提案あったとおりなんですが、私、個人的に付け加えるとしますと、今回、新型コロナウイルスということで問題が出ておりますが、

この表を見ますと7つあるんですが、私も同様でございます。議長の行動については、これはやっぱり議会を代表する方でございますので、ぜひ、これは我々が活動できない分、活躍をしてやってもらいたいと思いますので、これは削減しないでいいと思います。

あとは皆さんと同様でございます。

ただ、今回、ほかの議員さんにもお話があったようですが、我々がこうした活動をしても町の政策には細々と提案することはできないということでございますが、やはり町民の生活に密着していることですし、本町では幸いコロナ感染者というのではないということで少しあは安心しておりますが、現在、報道によりますと第2波とかそういったことも言われております。そういったことで、やはり気を抜くことはちょっとまだ早いのかなということで、できましたら手とかなんかの消毒ですか、そういった消毒水、次亜塩素酸水ですか、そういったものとか、あるいはマスクのようなものの購入にできるだけ充ててもらえば、そういうことに使ってもらえるように要望することもできましたらお願いしたいなと思っております。

それから、いろいろありますけれども、そういったことをお願いできればと思います。以上です。

○議長（三浦清人君） 全員の方々からの考え方といいますか思いを発言してもらいまして、全員協議会ですから、多数決とかそんなんじゃなくて全員でやっぱり全会一致の形で本当は持っていきたいと思っています。

おおよその方々、議員の方々にはやっぱり削減が望ましいと。特に5番、6番以外は削減すべきであるというお考え方の方々が大部分がありました。反対の方もおりましたし、時期を見てというお考え方の方もおりますけれども、大部分の方々が5番、6番を除いての旅費の削減は必要ではないかという内容がありました。

暫時休憩をいたします。

午前10時50分 休憩

午前10時51分 再開

○議長（三浦清人君） 再開いたします。

それでは、特別旅費ですが、7項目のうち、5番、6番を除く項目、1、2、3、4、7は削減をということで皆さんのお意見が多かったものですから、これでよろしいですか。（「はい」の声あり）

それでは、確認をさせていただきました。

切りのいいところで暫時休憩をいたします。

再開は11時10分。

午前10時52分 休憩

午前11時08分 再開

○議長（三浦清人君） 時間前ですけれども、始まってよろしいですか。

それでは、再開をいたします。

では、次に議員報酬の削減についてを協議いたします。

前回、28日の全員協議会で議員報酬の削減という発言がありまして、今日の全員協議会になったわけであります。先ほどのように、削減すべきかすべきでないかという御発言を一人一人からはお聞きいたしません。削減すべきでないという御発言の方のみお話を聞かせていただきたいと思いますが、そのように進めてよろしいですか。（「はい」の声あり）

それでは、削減すべきではないという御発言があれば御発言願います。11番星喜美男君。

○11番（星 喜美男君） 先ほど私言いましたように、2つ併せての発言でもっと様々な町民の皆さんに、国の施策の研修会をして、そしてそういった情報を提供していく、そっちのほうがよろしいのではないかと思っております。さっきも言いましたように、よその割合からいたしましても、報酬を例えば10%にしてもうちの議会では、ないよりはましでしょうが、本当の微々たる金額にしかならないのかなと思います。

○議長（三浦清人君） ほかに。14番後藤清喜君。

○14番（後藤清喜君） 私も、議員報酬は削減すべきではないと思っております。先ほど、旅費、特別旅費は削減したほうがいいと言ったんですけれども、やはり我々議員の報酬を削減しても金額はたかが知れていると思います。

ですから、あと足りない分は町の財調とかそういうのを使っていただいて、今回は議員報酬は削減すべきではないと。以上です。

○議長（三浦清人君） 2番倉橋誠司君。

○2番（倉橋誠司君） 私も削減すべきではないと思います。ただ、削減してもよいかなども思ってはおります。というのは、先ほども言いましたけれども、目的が明確じゃないと削減しても自分の思うところに使われないということが心配されますので、目的をしっかりした上で削減するのであればいいと思いますが、目的がまだ不明確な状況では削減すべきではないと思います。以上です。

○議長（三浦清人君） 8番村岡賢一君。

○8番（村岡賢一君） 私も住民の方々と話をしてきた中で、やはり今前議員が言いましたように使い道のはっきりしていないというところが非常に言われまして、じゃあ削減して誰がどういうふうに使うんだと言われても不公平感があつてはいけないということで、使い方を間違うと逆に反感、出したものがこれに使われたじゃないかということになつても、これはあまりよろしくないので、やはりそういうしっかりした流れの分からないところにただ単に議員報酬を削減するということは、私はよろしくないかと思っております。

○議長（三浦清人君） ちょっと先ほど局長から説明させたんですが、今までの削減すべきでないという御発言の中に、目的がはっきりしていないと、使い道が不透明であるというお話ですけれども、局長言ったように、削減した予算で、例えば、タブレットを買えとかあるいはマスクを買えとかそういったことは議会では言うことができないということ。ただ、コロナ対策に使ってほしいという決議書、議会で決議をして決議書を当局に出すということを先ほど説明したわけでありますから、その辺のところの御理解をしていただきながらの御発言をお願いしたいと思います。

ほかに。10番高橋兼次君。

○10番（高橋兼次君） 前案件と同じようなといいますかそういう考え方の下に、報酬については削減すべきじゃないと。それで、特に期末手当はずつと上げないできているわけですから、削減してきているのと同じですから、そういう意味の下に削減すべきじゃないと私は思っています。

○議長（三浦清人君） 何ですか、反対ですか、何の話ですか。今、聞いているのは、削減しなくてもいいという御発言を求めているんです。今、期末手当のお話がありましたが、その話はこれとまた分けて聞こうかなと思ってたんです。一緒にやつても、例えば、報酬は削減しても期末手当はそのままだということもあり得るんです、連動していませんので。それは皆さんの決めようですから。

ほかに。なければ、5人の方が上げるべきではないという発言をされました。どういたしましょうか。これまだ表決……。パーセントにもりますか。関係ないですか、パーセントはまだ関係ない。

7番、何ですか。

○7番（及川幸子君） 前議員方から、使途とかそれから報酬を減額しても微々たるものだという御発言がありましたけれども、やはり16人まとまる旅費と匹敵するぐらいの額になるか

と思うんです、率にもよりますけれども。

○議長（三浦清人君） 7番、人の発言にそういう発言はダメです。みんなそれぞれの思いを語ってもらったんだから、それに対するあなたの思いを言ったってダメなんだから。今は、削減をするかどうかということを決めるだけですから。座ってください。人の発言のことを言ってはダメ。

5の方々が削減すべきではないという発言がありましたけれども、どうですか。削減という方向で進めてよろしいですか。

5番後藤伸太郎君。

○5番（後藤伸太郎君） 申し訳ありません。今の発言を確認させていただきたいんですけども、削減する方向でよろしいですかという意思統一をしたということですか。

○議長（三浦清人君） 削減する方向でよろしいですかという今諮り方。

○5番（後藤伸太郎君） 議場の中では、削減しないほうが、削減しなくてよいのではないかという意見しか今のところ出でていませんが、逆の方向に触れるというのはちょっと理解に苦しむところがありますけれども。

○議長（三浦清人君） いやいや、だから、先ほど言ったようにこの全員協議会は削減するという発言があって、それで今日開いたんです。だから、それに対しての削減しなくてもいいという御発言がありますかということで今聞いたんです。全員協議会ですから。

11番。

○11番（星 喜美男君） さっきも言ったように、前回の全員協議会は、最初に特別旅費でコロナ対策をやってはどうかという案が出て、それに対して、そうじゃなくて議員報酬をカットしてやったほうがいいんじゃないですかというのが2人から出たんです。ですから、どっちかでやるというような前提で、だから私、1回に一括でやったほうがいいんじゃないですかとさっきも提案したんですけども、特別旅費でやることが決まれば、本当は1回で議員報酬カットのほうはなしになっているはずだと私は思うんですけども。

○議長（三浦清人君） 暫時休憩します。

午前11時21分 休憩

午前11時28分 再開

○議長（三浦清人君） 再開します。

1番。

○1番（須藤清孝君） すみません、話の流れが私もちょっと今理解できていなくて、ほかの議員の今意見ですと、前回の全員協議会で出たときの旅費のお話と、それに対する対案というお話で議員報酬の話があったと解釈している議員も多いと思います。ただ、議長の進め方としてというか今回の全員協議会の在り方として、対案という形ではなくて1番と2番は別協議ですと今おっしゃっていましたけれども、それを今私も理解してしまったので、話の流れでちょっと今混乱はしているんです。

言ったの言わないのという話ではないんでしょうけれども、2番の報酬の削減のお話を出した議員さんの意向的に、前回の記憶が私もちょっと薄いんですが、対案として確かに出されたと私も解釈しているところはありました。なので、そこを確認する必要はないんだと思いますけれども、こういう形でもし出しているのであれば、今、議長が意見を求めているので、私は削減はしなくていいほうとして意見を述べさせていただきます。

○議長（三浦清人君） 先ほども言いましたけれども、捉え方といいますか、皆さん対案として議員報酬も出たと、それはそれでいいと思います。私は、1と2と両方出たからということで今日はやって出しているんですけども。であれば、対案として出して、旅費は削減したと。議員報酬は削減しなくともいいんじゃないかと。だから、今は議員報酬を削減しなくてもいい方の御発言を求めてだったんです、解釈がどうあろうがです。

だから、聞くようになった、これ。それじゃあ、そのほかに対案として考えていて、いやいや、議員報酬は削減しなくてもいいという方はほかにありますか。あなたもそう思ってやつたんですか。12番菅原辰雄君。

○12番（菅原辰雄君） 私は、進め方としてちょっと疑義を持っていました。パーセンテージとか期間とか全然あれしないで最初から削減ありき、これでもって先ほど控室にいたときもちょっと疑念を持っていました。でも、これは議員としてあるまじき考え方かと思いましたけれども、心の中では少しこれもありかなと思ったんですけども、いろいろ考えてきた結果だし、あとは先ほど特別旅費についても400万円ぐらいの削減にはなっているということを鑑みて、あとはすみません、議長の進め方に対してちょっと疑義が生じてきましたので、あえてここで反対であるということを表明します。

○議長（三浦清人君） ちょっと今の発言ですと私の進め方が悪いために反対派みたいに聞こえたなんだけれども、そのありきというのはどういうことでありきなんですか。

○12番（菅原辰雄君） もう1回、もう1回。

○議長（三浦清人君） はい、どうぞ。

○12番（菅原辰雄君） もう1回。

○議長（三浦清人君） いやいや、削減ありきで進められているというような解釈したようすけれども、そういうつもりはないです。皆さんがそれで、皆、どっちのどういう御発言が多いかによって決めたいと思っていますので、ありきじやありませんから誤解のないように。

○12番（菅原辰雄君） 分かりました。今回は削減をしなくてもいいという考えです。

○議長（三浦清人君） ほかに。勘違いしている、勘違いで済みません、対案として何してたつていうことは。ないですか。あなたも。（「反対……」）反対とか賛成じやなくて、削減しなくてもいいという方の御発言はありませんかという諮り方です。何で手を挙げたんですか。それでは、削減したほうがいいという方々の御発言、考えを聞きますか。聞きますかと今聞いたの。ないですか。聞かなくていいですか。

それでは、削減しなくてもいいという方々が8名になりました。じゃあ、削減しなくてもいいという方向で進めて、確認してよろしいですか。

○7番（及川幸子君） 削減したいという人の発言も聞いてもらいたいと思います。

○議長（三浦清人君） いや、だから、さっき聞いたのは削減したほうがいいという発言をどうしますかと言ったら、何も言わないから。どうぞ。

○7番（及川幸子君） やはり私的には、旅費を削るよりも議会も身を切る改革というものが必要、町民が大変な思いをしている限り、自分たち議会も身を切る覚悟も必要でないかなと思うんです。だから、旅費を削るよりも議員報酬を削ったほうがいいと。

ただ、微々たるものだという方もおっしゃっていますけれども、いや、1人10%にすれば、1割、10%を削減すると、例えば、議長の30万円と計算しやすい額でいくと1人月3万円、そうすると6月からとなると10か月、3月までというと10か月で1人30万円。そうすると、その中に6月と12月期末手当が入ります。そうすると、期末手当も本俸が下がればおのずとそこも下がるので、1人、議長にすれば10か月で3万円で30万円になります。そうすると、それが16人、議長は高いからですけれども、16人というとかなりの額に、微々たるものでないはずです。率と期間にもりますけれども。ですから、ここで町民の痛手を考えると身を切る改革をすべきだと思うんです、私は。

旅費を削ってしまうと、じゃあコロナだから出ないから必要でないのかというと、今度は来年の予算にも影響してきます。ですから、旅費を残して、じゃあ議員活動どうなのという疑問も持たれます。それ以上やはり議員自ら報酬カットのほうが、身を切る改革になるんではなかろうかなと思うから、議員報酬をカットということで私はこの案を出させていただきま

した。

あとは、率としては10%の3月まで。4月になってしまふと今度は額がまた計算し直したりなんかしてややこしくなりますので、その辺も考慮して年度内3月までということで提案させていただきます。

○議長（三浦清人君） 提案というよりも、下げなくともいいとなれば率も期間も要らないんです。

○7番（及川幸子君） いや、下げたいんです、私は。下げたいほうです。

○議長（三浦清人君） いやいや、あなただけ下げたいと語ったって、今、皆さん方のどうしますかという協議会なものですから、先ほど言ったように8人の方々が下げなくてもいいという発言でしたので、このまま下げなくてもいいですかという確認をしたいんですがということで今諂っていたんです。何かまださらに、いや何とか下げるようについてお話をあれば。

5番後藤伸太郎君。

○5番（後藤伸太郎君） 削減するかしないかということは大変重要なことだと思うんですが、なぜ削減するのか、削減することによってどういう効果を生むのか、どういうメッセージを町民に伝えたいのかということこそが一番大事だと思います。

ですので、先般、下げたらどうかという意見が出ましたが、その理由、なぜ下げるのかということについてはどなたも言及はされていないと思います。なお、私は、個人的には議長の進め方、1番と2番と旅費と報酬は別物ですよねという取扱いをされたことは、私はむしろそうだと思っていましたので、旅費を下げるなら報酬は自動的に下げるという解釈は私はしておりませんでしたし、そういった確認をこの場ではしていないと思うんです。ですが、誤解された方というか、そういうふうに解釈された方がいることも事実ですので、であれば、なおさらなぜ減らすのかということをまず議論のテーブルの上に乗せることが先決ではないかと。

ですので、なぜ削減するのかという方からの意見をむしろ聞いたほうが、それによって削減しなくてもいいのではないかというお考え方の方の考えが変わる可能性が私はあると思いますので、聞いたほうがいいんじゃないですか。

○議長（三浦清人君） それで、削減をしたほうがいいという方々の御意見。今野雄紀君。

○9番（今野雄紀君） 私が言い出しちゃみたいなので、先ほど来、何のために下げるのかという発言とか、目的が明確でないとかそういう発言がありました。私は、先ほど申したようにマスクの件のときも、議会として、そして議員としてやはり今回の疫病騒ぎの中では震災以

来の大きな出来事だと思いまして、そこで大切なのは町民の人たちとの痛みの共有が必要じゃないかと私は思って削減の発言をしました。

議員とか以前の発言でもあったように、役所の勤めの方たちというのは、幾ら疫病騒ぎがあっても、いろいろな仕事その他の負担はかかるでしょうけれども、経済的な面では安定というか確保されているわけですけれども、そこで我々議員が報酬を下げる事によって、例えば、執行部のほうも動くかもしれませんし、私は、実際下げるとなったら、先ほどのパーセントは聞いていないという議長の発言もあったんですけども、端的にワクチンのような形で議員報酬を半額にして、ただし期間は3か月ぐらいでいいんじゃないかという考えでした。金額的には微々たるものという発言の方もおられましたけれども、人それぞれなので、たしか10%下げる事によるのと3か月半額するのでは、多分ほとんど同額だと思います。

そういういた思いから議員報酬削減ということをしたんですけども、やはり執行部というか町をあれしているほうも、今回のコロナ対策の各種補助金、協力金、その他に対する取り組みも違ってくるんじゃないかと、私はそういう想いでした。我々議員が半分にしたら、普段ですと町の三役がもしかすると動くかもしれないんですけども、下手すると半額という事でもう少し下の部分までそういう効果というか影響を与えるんじゃないかという想いがしましたので、私は、議員報酬を削減して町民の方たちに目に見える形で議員もこれぐらい身を削っていろいろやっているんだという想いを発信できればなという想いでした。

先ほど決まった旅費等ですと、町民の方たちにとってはもともとある使えるお金をただ削減しただけだという痛みのアピール度というのが違うと思いまして、議員の方たちそれぞれ当然生活がありますのでいろいろ事情等もあると思うんですが、私は、やはり今回こういった時期、本当はもっと早い段階で提案したかったんですけども、ちょうど雲も少し晴れてきたような報道もある中で、この南三陸町の議会として議員報酬の削減が実現できればよろしかったのかなという、少し残念な想いを語らせていただきました。

○議長（三浦清人君） ほかにありますか。4番千葉伸孝君。

○4番（千葉伸孝君） こういった会なので、何もいないままでは私もいられないというような今状況の中で少し発言させてください。

私も前任の今野議員と同じ考えです。やっぱり旅費ですと身を削らない。身を削らないでいいのかという議論がやっぱり一番大切で、議員たちも取りあえず自分たちの報酬を削ったといったのが報道で載れば、ああ議員の人たちも頑張っているんだなと、私たちの痛みと一緒に共有してくれているんだなと、こういった発信だけでも町民には力強いものと私はなると

思います。身を削ると言ひながら何も削らない政府、そういう形では南三陸町議会はないということをアピールするためにも、旅費に関しては、先ほど申し上げましたが、基本的に1年間の中でも使わないということを前提にして旅費の削減というような話でした。私は、議員の活動としては、旅費をコロナも最後には終息します、そういう中で年が明ければ状況も変わっているのかなと思いまして、使わない旅費に関しては削減したほうがいいというような考えです。

議員報酬に関しては、前任が話したように取りあえず皆さんもやっぱり生活が、私もなんですがれども、議員報酬で自分の生活の糧にもしています。そういう中で、町長がよく言う何か職員に問題が起こると報酬の20%ですか、そして3か月と、こういった形の身の処し方をしていますが、私はそれでもいいと思うんです。基本的に働く場がなくなって給料ももらえない、1日の働きももらえない、それが何か月も続く人たちはあしたの生活に困っているという状況を、私は町外のほうからしか情報が来ていません。今の町の状況というのは、そういう困っている商店、困っている人たち、生活弱者、障害者、そういった人たちの情報が1つも流れてこないと、町から。そういう中で今こういった議論がされていること自体が、皆さんの意見ですのであえてそれを批判はしませんが、何かその辺が非常に私は悲しく思います。

何のために議員になったといえば、町民の人たちにすばらしい町であることと、この町に住んでよかったですという形の発信をしたいということで私は議員になって、そして大震災から9年目を迎え、またこういった苦難が町民の方を襲ってきているような状況の中で、何か議会はしないといけないという観点から、私は議員報酬に関して、期末手当は私は別でもいいと思います。町長がいつも発信している20%、3か月、それで私は十分だと思います。町民の皆さんにも議会の気持ちがそれで十分に私は伝わると思いますので、議員報酬の削減を私はこういった形で提案しました。終わります。

○議長（三浦清人君） よろしいですか。まだ何かありますか。

多数決ではないんですけども、若干削減しなくともいいという方々の数がちょっと多いので、じゃあ削減しないという方向性で進めてよろしいですか。積極的にはいと語ってください。（「はい」の声あり） それでは、議員報酬については削減をしないという確認をさせていただきました。

それでは、最初の旅費の削減については、執行部のほうに決議書という形で提出をしたいと思います。それでよろしいですか。（「はい」の声あり）

議員発議という形でありますので、提案者、議運の委員長さんでよろしいですか。あの3常任委員、全員が賛同者という形を取ります。よろしいですか。（「はい」の声あり）じゃあ、そのように進めさせていただきます。5月19日の臨時議会に出したいと思っています。

じゃあ、その他何かありますか、皆さんから。ないですか。その他。（「臨時会」の声あり）まだ告示されていない。まだ言われません。

5番後藤伸太郎君。

○5番（後藤伸太郎君）先ほどあえて申し上げたのは、ちょっと本会議と違いますので取扱いは議長にお任せしたい部分があるんですけれども、少数意見の留保というのがあると思うんです。ちょっと全員協議会で少数意見も何も考えづらいと思うんですが、先ほどの議員報酬については削減すべき、削減しなくてもよい、それぞれのお考えがそれぞれの理由を持ってあったわけですから、委員会の中では意見がありましたよと。ただ、どこに向かってもアピールするものではないので、少数意見をつける基の意見がないという話になるんですけれども、お考えというか何か検討していただきたいなと思うんです。

要は、この先の議論がもう一度起こった場合に、今回の議論はたたき台というか素地として非常に重要な部分だと思いますので、記録を残しておく、議事録をしっかり取っておくというところでも構いませんので、必要かと思いますが、一言申し上げたいと思いまして発言させていただきました。

○議長（三浦清人君）1回切るから。いいですか。全員協議会は閉会してよろしいですか、一度。（「はい」の声あり）

以上、なければ全員協議会を終了いたします。

御苦労さまでした。

午前11時53分　閉会